

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-192020

(43)Date of publication of application : 28.07.1998

(51)Int.Cl.

A44C 25/00

A44C 3/00

(21)Application number : 09-006104

(71)Applicant : HANADA YOSHIMASA

(22)Date of filing : 17.01.1997

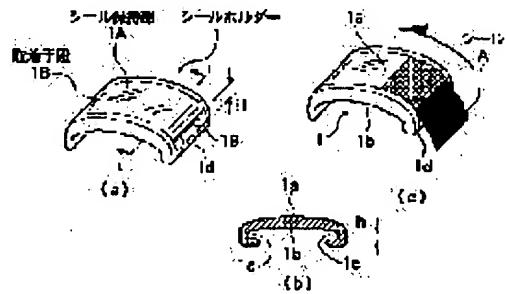
(72)Inventor : HANADA YOSHIMASA

(54) SEAL HOLDER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To hold a seal inside in a visible state from the outside and to easily perform attachment to personal belongings or a body by providing a seal holding part for which at least a member on the surface side of a holder part for detachably inserting the seal is made transparent and an attachment means.

SOLUTION: This seal holder 1 is provided with the seal holding part 1A for inserting and holding the seal A inside in the visible state from the outside and the attachment means 1B for attaching the seal holding part 1A to the personal belongings or the body. The seal holding part 1A and the attachment means 1B are constituted by integrally molding transparent resin. The seal holding part 1A is in an almost rectangular shape and is curved in a longitudinal direction by a large curvature radius. For the seal holder 1, the surface 1a is constituted of the smooth surface provided with a curvature and a groove 1c whose width is widened at an upper part and reduced at a lower part is formed on an inner surface 1b. The part where the width is widened of the groove 1c is turned to a dimension almost equal to the width of the seal A. The groove 1c is formed continuously to an opening 1d for constituting the attachment means 1B.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-192020

(43)公開日 平成10年(1998)7月28日

(51)Int.Cl.⁶

A 44 C 25/00
3/00

識別記号

F I

A 44 C 25/00
3/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全10頁)

(21)出願番号

特願平9-6104

(22)出願日

平成9年(1997)1月17日

(71)出願人 595125993

花田 好正

神戸市中央区筒井町3丁目14-6

(72)発明者 花田 好正

兵庫県神戸市中央区筒井町3丁目14番6号

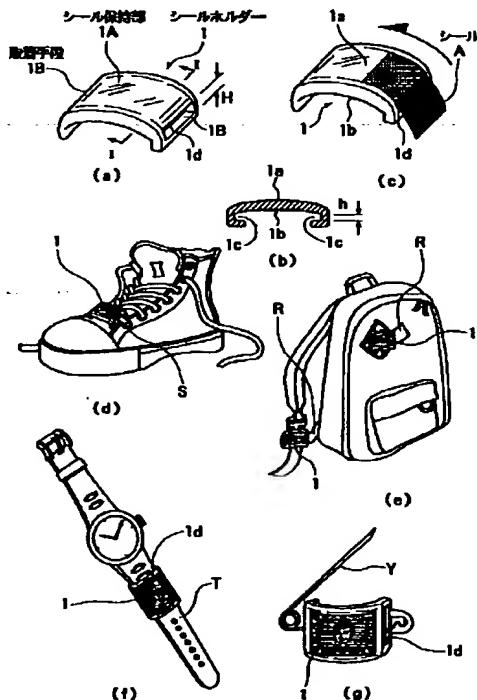
(74)代理人 弁理士 角田 嘉宏 (外3名)

(54)【発明の名称】 シールホルダー

(57)【要約】

【課題】 「顔写真入りシール作製機」等で作成したシールを外部から見える状態で内部に保持し、しかも時計等の身の回り品にも簡単に取着できるようなシールホルダーを提供することを目的とする。

【解決手段】 特定の文字あるいは絵等が描かれたシールAを衣服あるいはバッグ等の身の回り品又は身体に取着するためのシールホルダー1であり、少なくともシールAを取り出し可能に挿入するホルダー部分の表面が透明になったシール保持部1Aと、このシール保持部1Aを、上記身の回り品又は身体に取着するための取着手段1Bとを具備した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 特定の文字あるいは絵等が表されたシールを衣服あるいはバッグ等の身の回り品又は身体に取着するためのシールホルダーであって、少なくともシールを取り出し可能に挿入するホルダー部分の表面側の部材が透明になったシール保持部と、このシール保持部を、上記身の回り品又は身体に取着するための取着手段とを具備したことを特徴とするシールホルダー。

【請求項2】 前記シール保持部が、平面規矩形状に形成され、その両端にベルトに止める取着手段が一体に形成され、全体が透明樹脂によって成形されていることを特徴とする請求項1記載のシールホルダー。

【請求項3】 前記取着手段が、前記シール保持部の両端に延設された部分に形成された穴と、両端に少なくとも上記穴より大きい断面積の膨張部を具備した紐材とかなり、この紐材の両端の膨張部を上記シール保持部両端の穴に挿通することによって、身の回り品又は身体の一部に、紐材とシール保持部とで環状を形成して、取着することを特徴とする請求項2記載のシール保持部。

【請求項4】 前記シール保持部が、透明樹脂等の透明材料によって円筒形状に形成され、該円筒形状の少なくとも一端部に蓋部材がシール挿入に際し脱着自在に取着され、且つ両端のうちいずれか一端に、若しくは別途付設した部材に、取着手段としての穴を有することを特徴とする請求項1記載のシールホルダー。

【請求項5】 前記シール保持部が、部分球体状に透明樹脂等の透明材料によって形成され、部分球体状の少なくとも上端方あるいは下端方にシール挿入に際し脱着自在に蓋部材が取着されることによって、シールホルダーの全体形状が球体となり、且つ上記蓋部材あるいはシール保持部のいずれかに、若しくは別途付設した部材に、取着手段としての穴を有することを特徴とする請求項1記載のシールホルダー。

【請求項6】 前記シール保持部が、部分ラグビーボール状に透明樹脂等の透明材料によって形成され、少なくとも該部分ラグビーボール状の上端方あるいは下端方にシール挿入に際し脱着自在に蓋部材が取着されることによって、シールホルダーの全体形状がラグビーボール状となり、且つ上記蓋部材あるいはシール保持部のいずれかに、若しくは別途付設した部材に、取着手段としての穴を有することを特徴とする請求項1記載のシールホルダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンピュータ等を使用して作成した顔写真を描いた切手大のシール、あるいは人気キャラクターの図柄、若しくは般若心行等のお経が描かれたシール（本明細書において金属性のシート等も含む概念を言う）を、衣服あるいはバッグ、靴等の

身の回り品又は身体に取着するためのシールホルダーに関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】最近、ゲームセンター等を中心に、一つが切手大に写された顔写真を複数シール分一つのシートにプリントする「顔写真入りシール作製機」が販売されている。この装置は、利用する者の顔を写すカメラ部分と、このカメラ部分で写した顔写真に利用者が好みの模様で枠付け操作をおこなう入力処理装置と、上記カメラ部分で写した顔写真と枠付け操作に基づいて所定の模様の枠が回りに形成された顔写真を作成する演算装置と、この演算装置からのデータに基づいて顔写真が描かれたシールをプリントするプリント装置とを有する。

【0003】そして、この「顔写真入りシール作製機」は、小学生から大学生まで、あるいは営業マンに至るまで、幅広く利用し、この装置で作成したシール（図8参照）をバッグの表面、あるいは定期入れ、または名刺等の表面に貼って楽しみ、あるいは営業活動に利用している。

【0004】しかし、凹凸のある現在の状態では、例えば、バッグ表面にシールが張られると、バッグが壁あるいは他の物等に擦れることによって、シールに描かれていた顔写真等は損傷してしまう。

【0005】また、現在の使用態様では、単に貼るような円滑な表面がある物にしか貼ることができない。

【0006】つまり、金属バンドあるいは布製のバンドを取着した時計等では、表面がフラットでないためバンド部分に貼っても短時間で剥がれてしまい、またフラットな表面を有する時計の文字盤等には時計としての機能上貼ることはできない。

【0007】さらには、バッグに関しても、ベルト部分には、貼ることはできない場合が多く、仮に貼れたとしても短時間で擦れて損傷あるいは脱落してしまう。

【0008】本発明は、このような現況に鑑みおこなわれたもので、上述した「顔写真入りシール作製機」で作成したシール、自分のコンピュータで同様に作成したシールあるいはキャラクターが描かれたシール、又は金箔等の表面にお経を描いたシールを外部から見える状態で内部に保持し、しかも時計あるいはバッグのベルト等の身の回り品にも簡単に取着できるようなシールホルダーを提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】本請求項1記載の発明にかかるシールホルダーは、特定の文字あるいは絵等が表されたシールを衣服あるいはバッグ等の身の回り品又は身体に取着するためのシールホルダーであって、少なくともシールを取り出し可能に挿入するホルダー部分の表面側の部材が透明になったシール保持部と、このシール

保持部を、上記身の回り品又は身体に取着するための取着手段とを具備したことを特徴とする。

【0010】しかして、このように構成されたシールホルダーによると、このシール保持部のホルダー内にシールを挿入することによって、外部から従来と同様に見ることができるとし、シールが壁等に擦れて損傷するようなこともなく、且つ、取着手段によって、貼ることのできなかった身の回り品に簡単に取着することもできる。

【0011】

【発明の実施の形態】そして、請求項1記載の発明にかかるシールホルダーの1つの実施の形態として、本請求項2記載の発明の如く、シール保持部が、平面規矩形状に形成され、その両端にベルトに止める取着手段が一体に形成され、全体が透明樹脂によって成形されていると、時計のベルトに、あるいはバッグ等のベルト又は紐にシールホルダーを介して簡単にシールを取着することができ、外部からもシール表面に描かれた内容を容易に見ることができる。

【0012】また、請求項1記載の発明にかかるシールホルダーの1つの実施の形態として、本請求項3記載の発明の如く、請求項2の取着手段が、前記シール保持部の両端に延設された部分に形成された穴と、両端に少なくとも上記穴より大きい断面積の膨張部を具備した紐材とからなり、この紐材の両端の膨張部を上記シール保持部両端の穴に挿通することによって、身の回り品又は身体の一部に、紐材とシール保持部とで環状を形成して、取着すると、ベルトの幅が異なる場合にも、紐材の長さを変えることによって、簡単に取着することができる。また、指等に指輪の如く取着することもできる。

【0013】また、請求項1記載の発明にかかるシールホルダーの1つの実施の形態として、本請求項4記載の発明の如く、シール保持部が、透明樹脂等の透明材料によって円筒形状に形成され、該円筒形状の少なくとも一端部に蓋部材がシール挿入に際し脱着自在に取着され、且つ両端のうちいずれか一端に、若しくは別途付設した部材に、取着手段としての穴を有すると、上記蓋部材を外して円筒形状の中に形成されるホルダー部分へシールを円筒状に巻いて入れて後、蓋部材を該シール保持部に取着することによって、外部から容易に見ることができ、しかも穴部分にキーholderの取着リング等の取着手段を通せば、キーholderの中にシールを入れて楽しむことができる。

【0014】さらに、請求項1記載の発明にかかるシールホルダーの1つの実施の形態として、本請求項5記載の発明の如く、シール保持部が、部分球体状（球体状の一部をなす形状をいう）に透明樹脂等の透明材料によって形成され、部分球体状の少なくとも上端方あるいは下端方にシール挿入に際し脱着自在に蓋部材が取着されることによって、シールホルダーの全体形状が球体となり、且つ上記蓋部材あるいはシール保持部のいずれか

10

20

30

40

50

に、若しくは別途付設した部材に、取着手段としての穴を有すると、上記蓋部材を外して、部分球体状のシール保持部の中に形成されるホルダー部分へシールを巻いて入れて後、蓋部材を該シール保持部に取着することによって、外部から容易に見ることができ、しかも穴部分にキーholderの取着リング等の取着手段を通せば、中にシールを入れて楽しむことができる。

【0015】また、請求項1記載の発明にかかるシールホルダーの1つの実施の形態として、本請求項6記載の発明の如く、シール保持部が、部分ラグビーボール状（ラグビーボール状の一部をなす形状をいう）に透明樹脂等の透明材料によって形成され、少なくとも該部分ラグビーボール状の上端方あるいは下端方にシール挿入に際し脱着自在に蓋部材が取着されることによって、シールホルダーの全体形状がラグビーボール状となり、且つ上記蓋部材あるいはシール保持部のいずれかに、若しくは別途付設した部材に、取着手段としての穴を有すると、上記蓋部材を外して部分ラグビーボール状の中に形成されるホルダー部分へシールを巻いて入れて後、蓋部材を該シール保持部に取着することによって、外部から容易に見ることができ、しかも穴部分にキーholderの取着リング等の取着手段を通せば、キーholderの中にシールを入れて楽しむことができる。

【0016】

【実施例】以下、本発明の実施例にかかるシールホルダーを図面を参照しながら具体的に説明する。

【0017】【実施例1】図1は本発明の第1の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a)は全体斜視図、(b)は(a)のI—I矢視断面図、(c)はホルダーにシートを挿入する際の状態を示す斜視図である。

【0018】図1に示すシールホルダー1は、大別して、シールAを外部から見える状態に内部に挿入して保持するシール保持部1Aと、このシール保持部1Aを身の回り品あるいは身体に取着するための取着手段1Bから構成され、この実施例の場合、これらシール保持部1Aと取着手段1Bは、透明樹脂（例えば、アクリル樹脂）を一体成形することによって構成されている。従って、この実施例の場合には、シール保持部1Aと取着手段1Bと共に透明になっている。

【0019】また、上記シール保持部1Aは、平面視が略矩形状で、長手方向（図1において左右方向）に大きな曲率半径（略腕回りに近い曲率半径）で湾曲している。そして、このシールホルダー1は、図1(b)に図示するように、表面1aが円滑なやや曲率を持った面で構成され、また、内面（裏面）1bには上方で幅が拡大し下方で幅が小さくなつた溝1cが形成されている。そして、この溝1cの幅が拡大している部分（ホルダー部分）は、シールAの幅に略等しい寸法になっており、また、この溝1cは、図1(c)に図示するように、上述した取着手段1Bを構成する開口1d(図1(a)参

照)に連続して形成されている。但し、開口1dの高さHは、ベルト、紐等を通すためのスペースを確保するべく、上記溝1cの深さhの約2倍の寸法になっている。【0020】しかして、このように構成されたシールホルダー1は、図1(d)に図示するようにスニーカーの靴紐Sを上記取着手段1Bの開口1dに挿通して、該スニーカーに取着することができる。また、図1(e)に図示するように、リュックサックの紐Rを上記取着手段1Bの開口1dに挿通して、あるいは紐Rを介してリュックサックの固定部分に固定して、該リュックサックに取着することもできる。あるいは、図1(f)に図示するように、時計のベルトTを上記取着手段1Bの開口1dに挿通して、該時計に取着することもできる。さらには、図1(g)に図示するように、上記取着手段1Bの開口1dに安全ピンYを通して、セーターに取着あるいはネッカチーフの止め金具としても使用することができる。

【0021】そして、このように取着されたシールホルダー1には、図1(f)、(g)に図示するように、上述した「顔写真入りシール作製機」で作成したシールA(図8参照)、あるいは自分で描いた所望の図柄等のシールを、図1(b)に図示するように、上記取着手段1Bの開口1dから、シール保持部1Aの溝1cに挿入し保持することができる。そして、このシールホルダー1に挿入されたシールAはアクリル樹脂からなるシール保持部1Aによって表面が保護されているため、壁あるいは他人の靴等に擦れても、損傷する事がない、また図1(d)～(g)に図示するよう、靴あるいはベルト等にしっかりと止めることができるため、脱落することもない。

【0022】この場合、紫外線の通過を阻止するアクリル樹脂等の樹脂を使用すれば、シールAの退色も有効に防止することができる。

【0023】また、変形実施例として、上記取着手段1Bを、図2(a)、(b)に図示するように、シール保持部1Aの両端を延設して、その延設された部分に該シール保持部1Aの端面方に開口(連通)した係止用穴1qを形成し、この穴1qに、ゴムあるいは合成樹脂等で構成された係止紐(紐材)1zの係止膨張部1yを係止するように構成してもよい。この場合には、時計あるいはバッグ等のバントの幅が種々変化した場合にも、これに対応させて取着させることができる。また、長い係止紐1zを使用すれば、長手方向に係止紐1zで係止することができ、この場合には、より広いベルトにも、あるいはベルト以外のものにも取着することができる。上記膨張部1yの外径は、上記穴1qの内径より大きく形成されて、該膨張部1yが穴1qに係止可能になっている。

【0024】また、上記各シールホルダー1の場合、シールAの下面方が保護されるような構造になっていない

ことから、シールAの底面方にアクリル製等の台紙(薄板)をシールAと一緒に挿入するようにしてもよい。さらに、シールAの下面をも保護するために、上記シール保持部1Aを、図示しないが、二枚上下に重ねて一体になる分割構造にするとともに、上記図2と同じ係止用穴を形成し、この穴に、ゴムあるいは合成樹脂等で構成された係止紐(紐材)の係止膨張部を係止することによって、二枚上下にシールを挟んで重ねたシール保持部を一体に保持し、且つ係止紐によって腕等に取着するような構成であってもよい。つまり、腕、指あるいはリュックの紐等に取着するための係止紐を利用して、上下に分割されたシール保持部を一体にするような構成であってもよい。

【0025】〔実施例2〕次に、図3に基づいて、本発明の第2の実施例について説明する。即ち、この実施例の場合、図3(b)に図示するように、シールホルダー1のシール保持部1Aの外枠を円筒体1eで構成し、その円筒体1eの中に、該円筒体1eの内径より少なくともシールAの厚み分だけ小さい径で中心の穴にめねじが螺設された円筒状の芯材1fを具備した底部材1gを下方から挿入するとともに、円筒体1eの上方から、上記芯材1fの穴1hのめねじに螺合するおねじ部1jを中心具備し上端部に貫通穴1mが形成された蓋部材1kを上方から被せて、上記めねじにおねじを螺合させる。

【0026】この結果、図3(a)に図示するような、円筒体のシールホルダー1が構成され、上記円筒体1eと芯材1fの間に形成されたホルダーパートに、図8に示すような、シールAを挿入する。そして、このようにシールAが挿入されたシールホルダー1は、図3(c)に図示するように、リングWを上記貫通穴1mに挿通して、サイフあるいはキーホルダー等に取着することができる、また、図3(d)に図示するように、上記貫通穴1mにチェーンPを挿通して、首から下げるようになるとできる。

【0027】この場合、ペンダントの如く使用する場合には、上記蓋部材1kを金メッキあるいは銀メッキ等しておくと、高級感をかもし出すことができる。同様に、上記底部材1gを金メッキあるいは銀メッキ等するとさらに高級感をかもし出すことができる。

【0028】〔実施例3〕次に、図4に基づいて、本発明の第3の実施例について説明する。即ち、この実施例の場合、図4(b)に図示するように、シールホルダー1のシール保持部1Aを、底面におねじ1oを具備し外枠が部分球体1nになったもので構成し、その部分球体1nの中に、該部分球体1nの内径より少なくともシールAの厚み分だけ小さい外径で中心の穴にめねじが螺設された円筒体1pを下端に具備するとともに、上端に貫通穴のある取着部材1sを具備し、上部の外形が上記部分球体1n側に取着されて全体で球体となる部分球体状をなす蓋部材1rの、該円筒体1pを、該円筒体1pの

めねじに上記シール保持部1 Aのおねじ1 oが螺着するよう、両者を螺合させる。

【0029】この結果、図4 (a) に図示するような、球体のシールホルダー1が構成され、上記部分球体1 nと蓋部材1 rの間に形成されたホルダー部分に、図8に示すような、シールAを挿入する。そして、このようにシールAが挿入されたシールホルダー1は、図4 (c) に図示するように、リングWを上記取着部材1 sの貫通穴に挿通して、サイフあるいはキーホルダー等に取着することができ、また、図4 (d) に図示するように、上記取着部材1 sの貫通穴にチェーンPを挿通して、首から下げるようによくすることができる。

【0030】この場合、ペンダントの如く使用する場合には、上記蓋部材1 rを金メッキあるいは銀メッキ等しておくと、高級感をかもし出すことができる。

【0031】【実施例4】次に、図5に基づいて、本発明の第4の実施例について説明する。この実施例は、図4に図示するシールホルダーと外形的には同じ球状体のシールホルダーで、取着手段の構成等において差異を有する。

【0032】つまり、図5 (b) に図示するように、シールホルダー1のシール保持部1 Aを、内部に底面から上端近傍に至る円筒状の空間1 uと該空間の上端から外部に至る貫通穴1 tを具備した外枠(外形)が部分球体1 nになったもので構成し、その空間1 u内に、基部が該空間1 uの内径より少なくともシールAの厚み分だけ小さい外径で且つその下端部が該空間1 uの径とほぼ等しい(正確には若干小さい)外径であって上端部が上記貫通穴1 tに等しい(正確には若干小さい)外径で上端方に貫通穴1 s'が形成された概略段付き円筒体状の蓋部材1 rを、挿入することによって、全体が球体状をなすように構成されている。

10

20

30

40

50

【0036】【実施例5】次に、図6に基づいて、本発明の第5の実施例について説明する。この実施例は、図4、図5に図示するシールホルダーと外形的には同じ球状体のシールホルダーで、蓋部材および取着手段の構成等において差異を有する。

【0037】つまり、図6 (b) に図示するように、シールホルダー1のシール保持部1 Aを、内部に底面から上端近傍に至る円筒状の空間1 uと該空間の上端から外部に至る小径の貫通穴1 tを具備した外枠(外形)が部分球体1 nになったもので構成し、その空間1 u内に、基部が該空間1 uの内径より少なくともシールAの厚み分だけ小さい外径で且つその下端部が該空間1 uの径とほぼ等しい(正確には若干小さい)外径であって上端部が上記貫通穴1 tに等しい(正確には若干小さい)外径で上端方に貫通穴1 s'が形成された概略段付き円筒体状の蓋部材1 rを、挿入することによって、全体が球体状をなすように構成されている。

【0038】この結果、図6 (a) に図示するような、球体のシールホルダー1が構成され、上記部分球体1 nと蓋部材1 rの間に形成されたホルダー部分に、図8に示すような、シールAを挿入する。そして、このようにシールAが挿入されたシールホルダー1は、図6 (c) に図示するように、リングWを上記蓋部材1 r上端部の取着手段たる貫通穴1 s'に挿通して、サイフあるいはキーホルダー等に取着することができ、また、図6 (d) に図示するように、上記貫通穴1 s'にチェーンPを挿通して、首から下げるようによくすることができる。そして、かかる構成では、上記リングWあるいはチェーンPが、蓋部材1 rが部分球体1 nから脱落するのを防止するよう機能する。

【0039】この場合、ペンダントの如く使用する場合には、上記蓋部材1 rを金メッキあるいは銀メッキ等しておくと、高級感をかもし出すことができる。

【0040】このように構成されたシールホルダー1は、図4に図示するものに比べて、加工が非常に容易となり、安価に大量生産するのに適している。

【0041】また、この実施例の如く構成した場合には、上記シールホルダー1を成形品で構成する場合には、その金型の構成が簡単になり、良好な成形が可能になるとともに、安価に実施することが可能となる。

【0042】【実施例6】次に、図7に基づいて、本発明の第6の実施例について説明する。即ち、この実施例の場合、図7 (b) に図示するように、シールホルダー1のシール保持部1 Aの外枠を、内部に円筒状の空間1 eが形成され外形が部分ラグビーボール状である樽状体1 tに構成し、この円筒状の空間1 eの中に、該円筒状の空間1 eの内径より少なくともシールAの厚み分だけ小さい外径で中心にめねじが螺設された円筒状の芯材1 fを具備した底部材1 gを下方から挿入するとともに、円筒状の空間1 eの上方から、上記芯材1 fの穴1 hの

【0034】この場合、ペンダントの如く使用する場合には、上記蓋部材1 rを金メッキあるいは銀メッキ等しておくと、高級感をかもし出すことができる。

【0035】このように構成されたシールホルダー1は、図4に図示するものに比べて、加工が非常に容易となり、安価に大量生産するのに適している。この場合、取着部材1 sは金属であっても、あるいは樹脂等の材料によって形成されてもよい。

めねじに螺合するおねじ部1 jを中心にはし上端部に貫通穴1 mが形成された蓋部材1 kを上方から被せて、上記めねじにおねじを螺合させるように構成する。

【0043】この結果、図7 (a) に図示するような、全体の外形がラグビーボール状のシールホルダー1が構成され、上記シール保持部1 Aと芯材1 fとの間に形成されたホルダー部分に、図8に示すような、シールAを挿入する。そして、このようにシールAが挿入されたシールホルダー1は、図7 (c) に図示するように、リングWを上記貫通穴1 mに挿通して、サイフあるいはキーホルダー等に取着することができ、また、図7 (d) に図示するように、上記貫通穴1 mにチェーンPを挿通して、首から下げるようにすることもできる。

【0044】この場合、ペンダントの如く使用する場合には、上記底部材1 gと蓋部材1 kを金メッキあるいは銀メッキ等しておくと、高級感をかもし出すことができる。

【0045】また、この実施例の場合にも、図4の実施例の如く、底部材1 gに相当する部分をシール保持部1 Aと一体に成形して、別部材としての該蓋部材1 gを無くしても良い。

【0046】上記「実施例2～5」の場合にも、材料的には、実施例1の場合と同じように、透明のアクリル樹脂が用いられているが、実施例1の場合も含めて、シール保持部のホルダー部分の表面側の部分以外は、不透明のものであってもよい。また、樹脂そのものは、必ずしもアクリル樹脂に限定されるものではなく、透明な樹脂であれば良いことはを言うまでもない。

【0047】ところで、上述の各実施例の如くシール保持部の、挿入したシールの表面側の部分が凸状になっていると、挿入したシールが大きく見えるという作用効果をも同時に奏する。

【0048】また、上記各実施例において、上記シールA (図8参照) に代えて、金、銀、プラチナの板材あるいはメッキ板材の表面に般若心行等のお経等が刻印されたものを挿入すると、シールホルダーを「お守り」として使用することもできる。

【0049】ところで、上記各実施例では、シール保持部あるいは蓋部材等に透明樹脂を用いた例について説明したが、透明樹脂に代えて、水晶、ガラス等の透明材料を使用しても良いことは言うまでもない。

【0050】また、上記実施例の多くの場合、取着手段として、蓋部材に貫通穴を形成した場合について説明したが、図5に図示する実施例に示すように、蓋部材あるいはシール保持部に別途取着部材を付設し、この取着部材に貫通穴を形成して取着手段を構成してもよいことは言うまでもない。

【0051】

【発明の効果】 しかし、本発明にかかるシールホルダ

一によれば、「顔写真入りシール作製機」で作成したシール、自分のコンピュータで同様に作成したシールあるいはキャラクターが描かれたシール、又は金箔等の表面にお経を描いたシールを外部から見える状態で内部に保持することができ、しかも時計あるいはバッグのベルト等の身の回り品にも簡単に取着できる。

【0052】そして、このシールホルダーに保持されたシールは壁あるいはバッグ等と擦れることによって、表面が損傷を受け、または脱落するようなことはない。

【0053】また、雨等にあたっても全体が脱落するようなこともない。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a) は全体斜視図、(b) は (a) のI-I矢視断面図、(c) はホルダーにシートを挿入する際の状態を示す斜視図、(d) ～(g) はシールホルダーの利用態様(使用態様)を示す斜視図である。

【図2】 本発明の第1の実施例の別の実施形態を示す図で、(a) 全体斜視図、(b) は一端の拡大斜視図である。

【図3】 本発明の第2の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a) は全体斜視図、(b) は (a) の各構成部材の分解斜視図、(c)、(d) はシールホルダーの利用態様(使用態様)を示す斜視図である。

【図4】 本発明の第3の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a) は全体斜視図、(b) は (a) の各構成部材の分解斜視図、(c)、(d) はシールホルダーの利用態様(使用態様)を示す斜視図である。

【図5】 本発明の第4の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a) は全体斜視図、(b) は (a) の各構成部材の分解斜視図、(c)、(d) はシールホルダーの利用態様(使用態様)を示す斜視図である。

【図6】 本発明の第5の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a) は全体斜視図、(b) は (a) の各構成部材の分解斜視図、(c)、(d) はシールホルダーの利用態様(使用態様)を示す斜視図である。

【図7】 本発明の第6の実施例にかかるシールホルダーの図で、(a) は全体斜視図、(b) は (a) の各構成部材の分解斜視図、(c)、(d) はシールホルダーの利用態様(使用態様)を示す斜視図である。

【図8】 図1～図7に図示するシールホルダー内に挿入するシールと、このシールが複数枚一つのシートにプリントされたものを表す斜視図である。

【符号の説明】

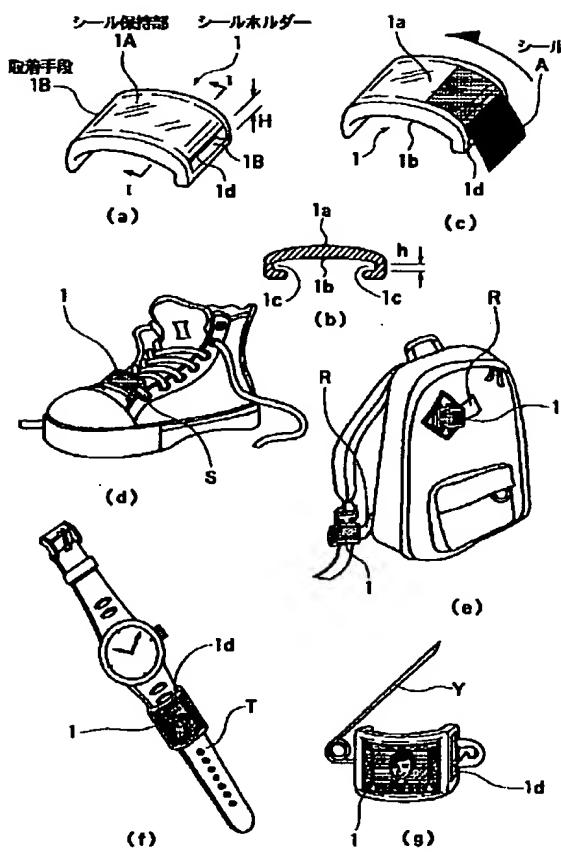
A…シール

1…シールホルダー

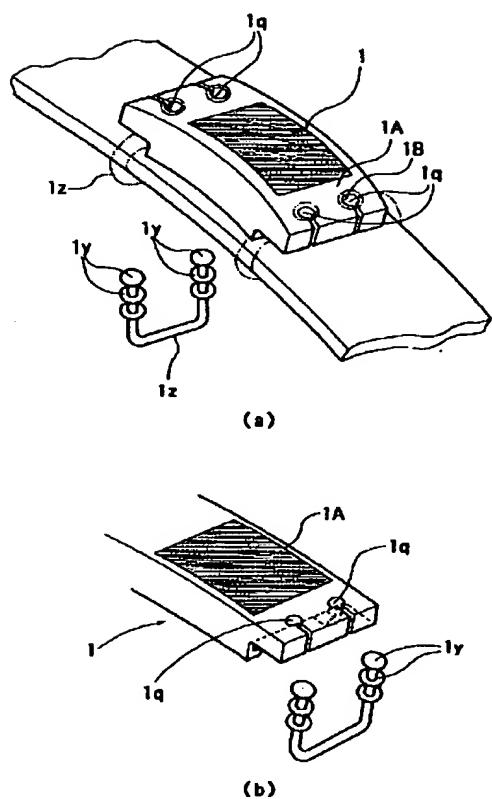
1 A…シール保持部

1 B…取着手段

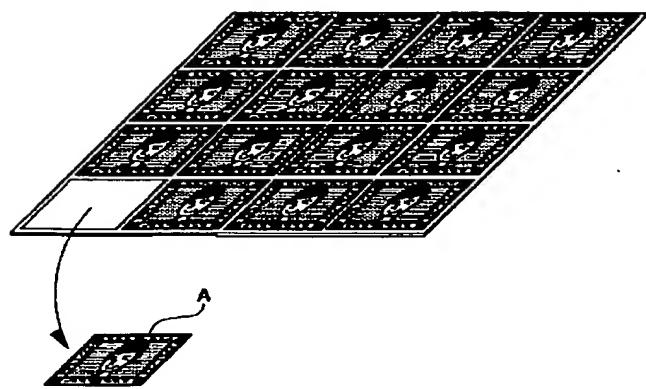
【図1】



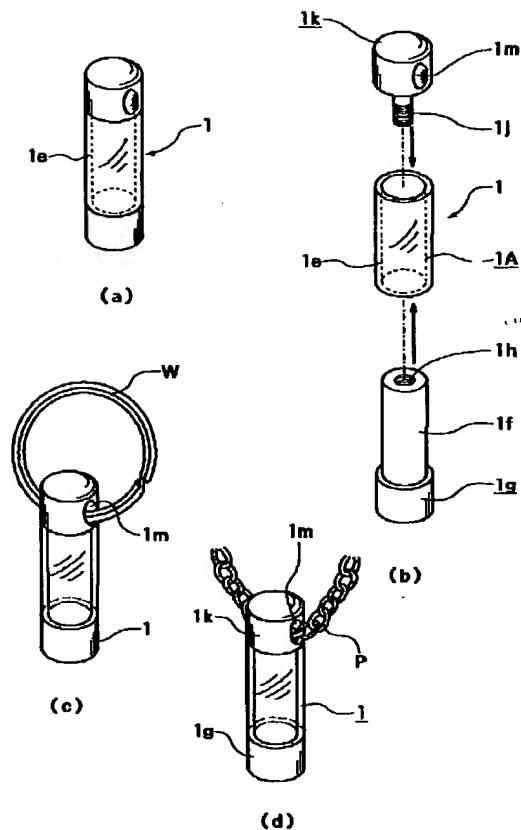
【図2】



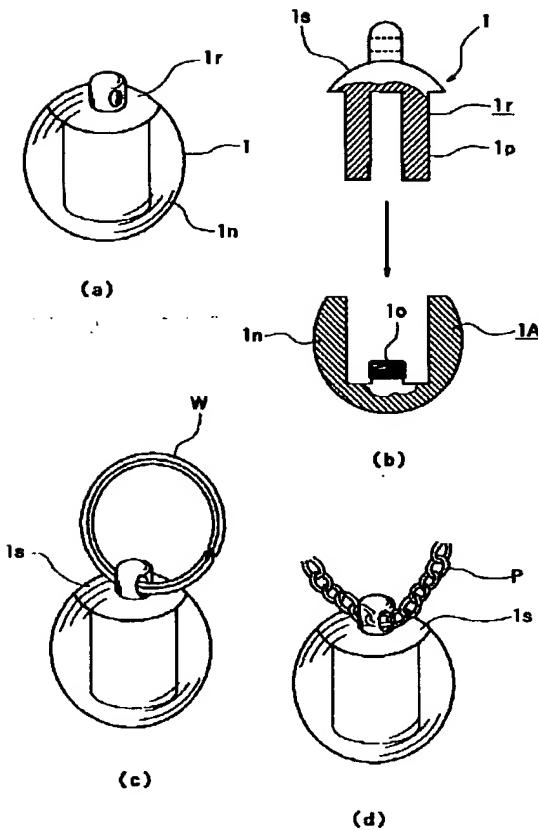
【図8】



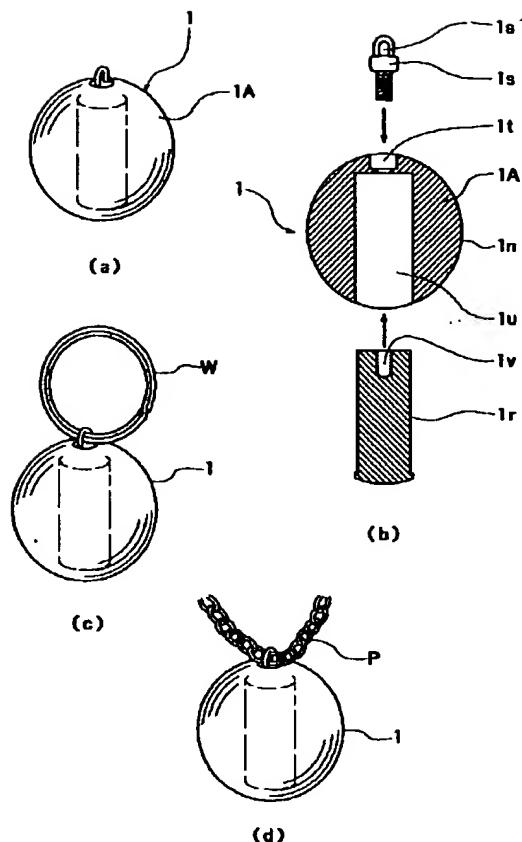
【図3】



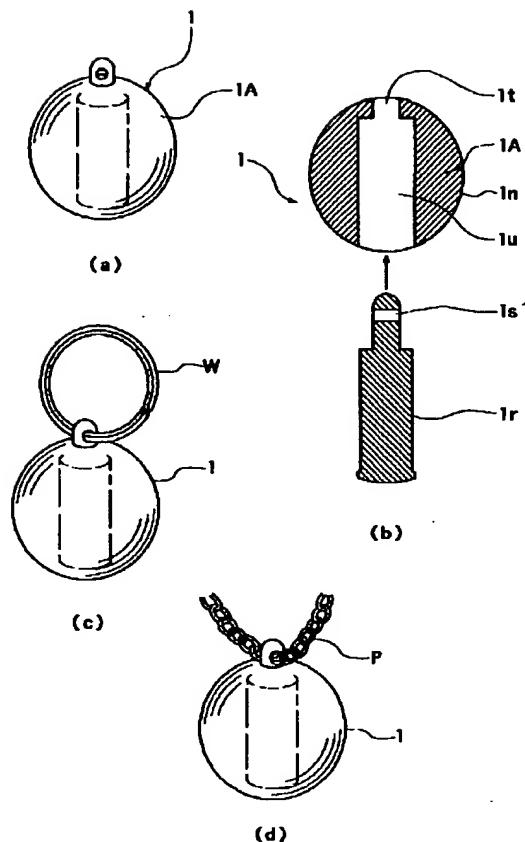
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

